

令和2年度 釜利谷地域ケアプラザPDCAシート\_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

これまでの「かまりや一の」「認知症サポーター養成講座」等の活動により、「地域での見守り支え合いの地域づくり」という点では成果がみられてきたように感じている。今年度は、それらの活動をより発展させた活動につなげいくように取り組むとともに、地域住民が住民自身で地域力をより高めていくことの一翼を担えていけるような情報提供、情報発信をしていく。また、地域の方々がこれからの生活設計を考えるきっかけとしていただくためにも、エンディングノートの普及に努めていく。

今年度の重点的な取組

新規  
継続

—具体的な取組内容—

■ 「これからも住み慣れた釜利谷で安心して過ごしていくために一緒に考える会”かまりや一の”」の継続  
・これまでの地域住民や事業者に加え、エリア内の小学校にも参加を依頼し”あいさつ運動”を中心に”住みやすい釜利谷”について考えていく。

■ 認知症の正しい理解、予防、介護者への支援の充実  
講演会の開催や、園児、小学生、中学生向けの認知症サポーター養成講座を継続して開催し、あらゆる世代に認知症についての正しい知識と理解を普及啓発していく。また、キャラバンメイト連絡会等を通じて支援者を増やしていく。

■  高齢者や退職された方、独居の方等が地域の活動に繋がるきっかけづくりの提供  
セカンドキャリアライフに関する講座やシニアボランティアポイント登録会、一人でも参加しやすい教室や事業を開催する。更に地域資源としての活躍の場も提供していく。

■ エンディングノートの普及活動の工夫  
広報紙への掲載、地域のサロンに出向いての周知に加えて、釜利谷地区センターとの共催で説明会を開催する。

■  情報の提供と情報提供方法の充実  
買い物マップや人口統計に続き、福祉マップ、災害マップ、地域の活動情報、お役立ち情報等、幅広い情報を提供していく。また、情報提供の手段として広報紙、掲示板、ホームページに加えて、FacebookとInstagramを今年度より開始する。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

今年度はコロナ禍の影響で全体的に事業の遂行が予定どおりには進まなかったが、人数の縮小、時間の短縮、開催回数を分割するなど工夫を重ねて事業を開催した。  
認知症サポーター養成講座は小学校で時間を短縮して実施し、参加した小学生たちの熱心な反応を得ることができた。エンディングノート説明会は1回の人数を減らし、回数を増やして開催した。  
また、FacebookやInstagramによる情報発信に加え、地域住民の方々とコロナ禍であっても交流を図るためのリモート会議実現に向けた取り組みも開始した。

区からのコメント

コロナ禍で地域と接する機会が減り、事業の実施も難しい状況下でしたが、感染症予防に留意しながら、個別相談や各種事業、地域資源と連携した取組を行っていただきました。また、SNSやインターネットを活用した情報発信や地域活動団体との交流、SNSの活用講座の実施など、新たな生活様式を取り入れた取組も積極的に行っていただいています。

新たな講座や教室の開催により、これまでケアプラザとあまり関わりのなかった方の参加にも結び付いています。各地域の資源をまとめた「釜利谷みんなの情報リスト」や「釜利谷みんなのお買いもの情報」は情報更新が大変だったと思いますが、専門職等の活動支援に役立っています。また、新たに作成した「釜利谷福祉施設マップ」は、関係機関との連携にもつながる取組です。

社会的に地域とのつながりが希薄となっており、SOSを出せずに困りごとを抱えている方も増えています。「かまりや一の」を中心に、引き続き地域のネットワークの構築に取り組んでいただくようお願いいたします。